



2009年5月3日

# いま起きつつあること…

信仰告白で大切なのは、その形よりもその内容であり、それが生きているものとなる て いるかであります。

今回の講演の学びは「アク ラ 信仰告白」ですが、これはまさに現代に生きる教会の 信仰を言い表した告白なのです。私たちの教会が、こう した現代の問題に対し て 信仰を言い表していることは、「私たちの教会が（現代に）開かれている教会だ」ということで す」と荒瀬先生は言われて い ます。

## 「生きている」 「信仰告白」

あるという姿勢ではあります。そうではなく、荒瀬先生は「これまで二千年間、信仰を言い表してきた信仰告白は、それがどういう意味を持つのか、そしてそれを新たに言い表す用意がありますよとの信仰的な構えを持った教会なんだ」とも言われています。

チエコの神学者で前WAB C総幹事ミラン・オポチエンスキーは、次のように語っています。「これら（ウエストミンスター・ハイデルベルクなどの信仰告白）は古典的な

ある教派（教会）では、歴史的な信仰に立つウエストミンスター信仰告白を今でも大事な信仰基準と考え、それを受け容れつつ歩んでいます。その点、私たちの教会は少し違っていて、ウエストミンスターの遺産を重んじつても、それだけが信仰の基準で

## 信仰告白を新たに言い表す

## 信仰の真正性が 問われる事態

# 信仰の真正性が 問われる事態

く時、現代の状況と切り結ぶ  
信仰の表明を必要としている  
のです。もし今も起こりつつ  
ある状況を無視し続けるな  
遲かれ早かれ、私たちの信仰  
も干涸びていくでしょう。

づいて学び取るものである」と  
いま、使徒信条と宗教改  
革時代の信仰告白に言い表さ  
れた信仰の骨格をもって、私  
たちが真摯に信仰に生きてい  
く時、現代の状況と切り結び

したちは、諸信仰告白から福音の深みを新たに、新鮮な仕方で把握するための、新たに洞察や理解力を与えられる」とを、信仰の自由と希望に堪能できない。今日もわた

金子塔である。しかしながら、それらは最後の言葉でも、最終的な言葉でも、究極的な言葉でもない。四百年以上も語り、そのまゝ單純に繰り返すを、

が積極的に応答する必要性と緊急性を明らかにするために、「アクラフ信仰告白」が今から5年前の2004年の世界改革教会連盟の総会で、採択されたのです。（次号に続く）

「ハハした！」とか、「今世界で起こっている経済的不正義と環境破壊に対し、教会が積極的に応答する必要性と緊急性を明らかにするために、

態を「信仰告白の事態」と称し、信仰告白が問題となる事態であるとして、たとえばアパルトヘイトを保持する南アフリカに対しして信仰を表明してきました。

ました。そして、ある状況が人間の尊厳をそこなつており、それに対しして信仰者が福音をもって対峙しないのなら自分たちの信仰の真正性が問われるところほどに深刻である事

の状況下で、何が起こっているのか。そうした中で信仰上見過ごすことができない危機的な事態に直面した時に、教会は真剣に信仰的な応答をしなければならないと受け止め